

## 行ってきました！茨城特 P 合同研修会

茨城県の全部の特別支援学校（知的・病弱・視覚・聴覚・肢体の特別支援学校）と知的の特別支援学校だけの組織があります。前者が「茨城特別支援学校 PTA 連絡協議会」で後者が「茨城県特別支援学校知的教育校 PTA 連絡協議会」と言います。この二つの組織の合同の研修会です。だから本当は茨特 P・茨知 P 合同研修会です。



ひたちなか市総合運動公園、体育館のアリーナで行われました。広々としたアリーナの三分の一という状態で、秋の長雨の日でした。体が冷え切ってしまいました。

この日の講演は、「家庭と学校をつなぐ あたりまえ防災」。講師は千葉県立長生特別支援学校教頭 瀧川 猛 先生です。とてもあつい方でした。レジュメはあったのですが、まったく話の間は役に立たなかったです。後から、ゆっくり見直して「ああ、話していたのはここにあった」と見つける感じ。原稿がないと上手く話せないタイプと、原稿があっても全く違うことをしゃべるタイプといたとすれば、間違いなくこの先生は後者でした。

防災のエキスパートと言われるような方が言っていることは同じです。防災は日ごろやっているとなのです。

防災＝命を守る。安心・安全の学校という視点でお話をいただきました。きっかけは、校内マラソンで生徒が亡くなってしまったことから。AED を何故使えなかったのか？今でも助けられたのでは…という思いがよぎるそうです。そこに、新任の校長先生が全国の支援学校を防災でつなげたいという思いを持った方との出会いがあったので、この防災の道に入ったのでした。

人との出会って、不思議ですね。



熊本の災害で駆け付けた時のお話がありました。とにかく、話を聞くことが第一だったとのこと。じっと聞く。

それから、学校だけでなく事業所周りも大切でした。学校よりも早く事業所が開業しました。先生も、大人も皆被災者。預けられる場所が出来たことは本当に保護者にとっては必要なこと。また熊本ではお家に帰れない子が多くみられたそうです。そこで「やっぱりおうちがいいな」という紙芝居が作られました。これは、熊本市のホームページからダウンロード出来ますよ♡

[www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c\\_id=5&id=12678](http://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=12678)

# やっぱりおうちが いいな

～地震後トラウマで家に帰れない子どもたちのために～



熊本地震の後に、建物の揺れや物が落ちてきたことによるトラウマで家が怖くて帰れなくなった子どもたちがいます。そのような子どもたちのためにこの絵本を作りました。おうちの方の参考になれば幸いです。

熊本市  
子ども発達支援センター

木村重美、細郷幸美 作  
川嶋久美 絵

学校で防災訓練を行うポイントは、無理なく続けるために3年サイクルで長期計画。今出来ること・出来そうなこと・出来ないことの発想と整理が必要です。

この紙芝居のように、何が出来るかとやってみるということは大切です。

AED 訓練ではないけれど、知識も必要です。私も AED 講習を受けたことはありますが、死戦期呼吸は知りませんでした。この呼吸こそ、AED が必要というサインなのです。最初に戻りますが、先生の最初に出会った亡くなった生徒さんはこの死戦期呼吸をしていたそうです。

避難所で大切なことは「役割」です。視覚障がいの方の避難所での役割ってなんでしょう？車いすの方の避難所での役割って何でしょう？みなさん、考えてみてください。

そして、防災は日ごろやっていることだということについて。例えば車いすの子の日ごろの防災にそなえてやることは姿勢。抱っこしやすいためには、体幹がきちんとすることが必要。その為に体づくりをしなければいけないのです。日ごろのつき合いも防災に役立つのです。居住地校交流は防災にも大切なのです。こんな発想してなかったですね？

そして児童ディも、熊本では学校よりも早い居場所となりました。全ては防災の視点で考えるとつながりますね。

瀧川先生は東金支援学校で、「あたりまえ防災」の替え歌を発信した方です。

わが校にも「あたりまえ防災」の替え歌を作っていますが、日ごろから振りをつけて歌えるようにしたいですね。

(死線期呼吸：心肺停止直後に見られるしゃくりあげるような呼吸)

